



ボランティア報告

第6回

日時	平成24年 4月12、13日
参加者	寺本亮吾 土屋直樹 田中亮直 光栄澄人 小川憲法 永橋良文 永橋文教 河邊良典 田中晃生 石川寛昭 強頼尚樹
作業内容	ワカメの加工作業。 石浜港中の養殖場から採ってきたワカメを浜に引き上げ、メカブ・莖・葉体に分ける作業。 佐藤会長宅にて、塩漬けされているワカメの仕分け作業。 石浜コミュニティセンター完成のお祝いに掛け時計を贈呈した。

第7回 石浜祭

日時	平成24年 7月4日～6日
参加者	寺本亮吾 土屋直樹 武藤良謙 田中亮直 光栄澄人 高柳亮白 清水英樹 木本栄悟 清水英隆 永橋文教 河邊良典 田中晃生 石川寛昭 陸奥仏青1名 信越仏青4名 南総仏青4名 東京仏青3名 栃木仏青1名 スチールパン奏者2名
内容	焼きそば、フランクフルト、焼き肉、ワタあめ、生ビール、日本酒などの提供と、スチールパンの演奏、カラオケ大会、子供用のゲームコーナーなど。 石浜地区、北の沢地区から100名近い方々にお越しいただき、大盛況に終わりました。

東北地方を中心に未曾有の被害をもたらした東日本大震災から二年が経ち、各地からは徐々に復興に向けた明るいニュースを耳にするようになりました。

我々が震災当初より支援を続けている南三陸町の石浜地区でも、地域各所で復興の兆しを目にする事ができるようになり、中でも漁の再開は石浜の人々を大いに活気づけています。

我々の活動内容も、瓦礫の撤去や側溝に流れ込んだ土砂処理といった『作業』から、ワカメ漁・秋鮭漁の手伝いといった地元の方が中心となる『お手伝い』へと変わってきているように感じます。

漁のお手伝いをさせていただく中で、これまででは触れ合うことの出来なかった方々とも触れ合うことが出来るようになったと同時に、何気ない会話の中に、経済的な厳しさや、今、被災地の方が抱えている問題などを聞くことができました。この問題を自分たちだけで終わらせるのではなく、今もなお現地で活動を続けているボランティアセンターとも共有し、被災された方々の自立という本当の意味での復興に繋がればと思います。お世話になっている佐藤会長によると、また来てほしい団体として真っ先に名前が挙がった内の一つに、当埼玉仏青の名前があったそうです。多くのボランティア団体が石浜地区から撤退していく中、現在も現地の方に声を掛けていただける事で、我々のやってきた事が間違いではなかったと実感することができました。

復興ははしてきているとはいえ、まだまだ仮設住宅にお住まいの方も沢山いらっしゃいます。あと何年かかるのかはわかりませんが、石浜地区全ての人に笑顔が戻るまで、引き続き支援を続けていきたいと思っています。

田中 晃生



ワカメ加工作業のお手伝いの様子です。

11月に行われた8回目となる今回のボランティアは8名が参加し、秋鮭漁のお手伝いをしてまいりました。石浜地区の復興の礎となる漁を体験させていただくことになり、迷惑だけはかけまいと一様に緊張した面持ちで臨みました。五隻の船に分かれ、それぞれの漁場にて網にかかった魚をはずし、種類や大きさで仕分ける作業や、網を捌くなどの作業をしました。

また、代表者の方の随行のもと、仮設住宅の方々に支援物資を手渡しさせていただきました。その際に「ほら、埼玉の天台宗の」で大半の方に認識していただき、大変嬉しく思いました。

今回は石浜の方々と話をする機会がたくさんあり、新たにいろいろな話を聞かせていただきました。その中で、「漁を体験してもらい、復興に向けて頑張っていることを多くの人に伝えてほしい」、「復興したらお世話になった埼玉の皆さんをもてなしたい」といった言葉がありました。漁港は七割以上の機能を失い、船も津波によって流されてしまうなどまだまだ困難を極める状況であり、復興への道のりの険しさは計り知ることは出来ませんが、今後多少しくても多くの笑顔を届けるべく、継続して活動していきたいと思いを。

永橋 文教

石浜祭りの様子です。



秋鮭漁のお手伝い・・・
というより体験させて
いただきました。

第8回

日時	平成24年10月24、25日
参加者	土屋直樹 田中亮直 光栄登人 木本栄悟 清水英隆 永橋文教 河邊良典 田中晃生
支援物資	ギフトカタログ × 90
作業内容	4艘の漁船に乗せて頂き、それぞれ船長の指示に従い、仕掛けてある定置網の回収、網にかかった魚を外す作業をお手伝いさせていただきました。合わせて港の海岸の清掃作業と、仮設住宅の方々に直接カタログギフトを届けた。



私は今まで行われた8回の埼玉仏青によるボランティア活動のうち、6回参加させていただきました。一昨年は瓦礫や土砂の撤去といった作業でしたが、昨年の活動はワカメの加工作業、鮭漁のお手伝い、さらには石浜の地域の皆さんとお祭りなど地元の人達と触れ合う機会が多くなりました。

なかでも「石浜祭り」として7月に開催したお祭りでは、たくさんの地元の方々、子供たち、また多数の他教区仏青さんの参加、各県の物産やお酒などもご協力頂き、地元の皆さんからは「また来年も楽しみにしてるよ」と嬉しいお言葉も頂いて盛大に盛り上がりました。

また4月のワカメの加工作業では、時期になると「猫の手も借りたい程忙しい」というそんな多忙の中、素人の我々に快く手伝わせていただき、さらには「ほら、これ食べな!」と、獲れたてのメカブをその場で茹でて食べさせてもらったり、ボランティアに来ているはずの我々がもてなされ、そして普段では味わうことの出来ない貴重な体験をさせていただいて、申し訳ない気持ちと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

石浜地区のどんな困難にも負けない力強さと絶やさない笑顔を見習いながら、これからも出来る限りボランティアに参加していきたいと思いを。

河邊 良典